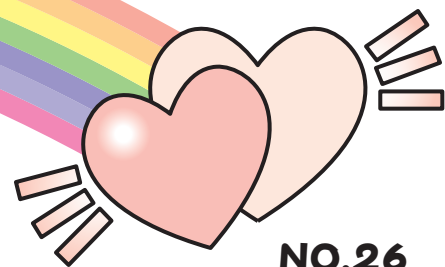


# ハロ-通信



NO.26  
2008.5月

発行元：えひめ保健企画/若水ハロ-薬局・松山ハロ-薬局

今回は甲状腺についてのお話です。名前は聞いたことあるけど、実際にどんな働きをしているのか知らない人も多いのではないのでしょうか？甲状腺は小さな器官ですが、甲状腺ホルモンという体にとっても重要なはたらきをするホルモンを作っています。今回は甲状腺の働きや疾患についてです。

## ●甲状腺とは

甲状腺は、のどぼとけの下の方にある気管軟骨に張り付いている内分泌器官で、蝶が羽を広げた様な形をしています。ヨード（ヨウ素）を原料にして甲状腺ホルモンを作る働きをしています。簡単に言えば甲状腺ホルモンは、新陳代謝を活発にするホルモンで人間が生きていくうちで欠かせない大切な働きをしています。不足すると体内でエネルギーがうまく作られなくなり、極端に不足すれば、中枢神経が障害されて生命にかかわることもあります。甲状腺ホルモンに過不足がないかどうかは、血液検査で濃度を測って調べます。



## ●甲状腺の病気

甲状腺に異常がおこると、たいていの場合は甲状腺全体が大きくなるか、一部が腫れるかします。また血液中の甲状腺ホルモンが過剰になったり、不足することで様々な症状が現れてきます。どれも男性より女性に多いのが特徴です。

### 甲状腺の病気について

甲状腺全体が腫れる	バセドウ病	甲状腺機能亢進症 血液中に甲状腺ホルモンが多くなる。
	橋本病	甲状腺機能低下症 甲状腺ホルモンが不足することがある。
	単純びまん性甲状腺腫	甲状腺が大きくなっているが、異常は無い。
	亜急性甲状腺炎	痛みがあり、体はだるい、自然と治ることも多い。
甲状腺の一部にしこり、腫瘍ができる	結節性甲状腺腫	腫瘍性疾患 良性と悪性がある。

## ●バセドウ病とは

バセドウとはドイツ人医師の名前からきています。200~500人に1人ぐらいの方がかかっているとされています。甲状腺機能亢進症がおきるのはバセドウ病だけではありませんが、日本では90%以上がバセドウ病のため、バセドウ病を甲状腺機能亢進症と呼んでいます。

**病 態**：自分の甲状腺を刺激する自己抗体が作られるために甲状腺ホルモンが過剰に作られてしまい、甲状腺が大きくなったり、全身の代謝が過度になる病気。

**症 状**：「首の前の部分が腫れる」「よく食べるのにやせる」「体温が高くなる」「汗をかきやすい」「脈拍が速くなる」「疲れやすい」

**治療**：過剰な甲状腺ホルモンを抑える「抗甲状腺薬」を飲む。甲状腺の一部を外科的に切除する。放射線をあて甲状腺ホルモンを作れないようにする。

**薬**：甲状腺ホルモンの合成を抑える薬として「チアマゾール」「プロピルチオウラシル」があります。ある程度多い量を使い、徐々に減らしていく方法で続けます。副作用としては皮膚のかゆみ、発疹、無顆粒球症といった感染が起こりやすいなどが起こる場合があります。

**日常生活**：食事はバランスがとれていれば、普段通りの食事がかまいません。喫煙は治療の妨げになったり、目の症状を悪化させることがあるので避けたほうがよいです。



## ●橋本病とは

橋本病は、甲状腺に慢性の炎症がおきている病気で、慢性甲状腺炎の別名です。橋本病という病名も医師の名前からきています。大多数の方は、甲状腺ホルモンに過不足はなく、この場合からだへの症状というのも特にありません。甲状腺の働きが低下して甲状腺ホルモンが不足する場合、甲状腺機能低下症となりからだにも支障がでてきます。また、一時的に甲状腺ホルモンが過剰になることもあります。これは炎症が一時的に強まることが原因で、大抵は自然に治りますが、治療が必要となる方もいます。ここでは甲状腺機能低下症についてみていきましょう。

**病態**：甲状腺ホルモンが低下し、全身の代謝が低下する病気。

**症状**：「体温が低くなる」「食べないわりに体重が増える」「脈拍数が減る」「便秘」「体の動きが鈍くなる」「顔や手足がむくむ」

**治療**：甲状腺ホルモンを内服で補う。

**薬**：甲状腺ホルモンを補充する薬として「レボチロキシンナトリウム」「リオチロニンナトリウム」「乾燥甲状腺」があります。血液中の濃度を調べながら徐々に増やしていき、必要な量を決めていきます。副作用はほとんどありませんが、胃潰瘍・コレステロール治療薬の一部を併用すると吸収が悪くなる場合があります。

## ●甲状腺の腫瘍について

甲状腺の腫瘍には良性と悪性とがあります。これを調べるために、超音波エコーや、必要な場合には細胞をとっての検査を行います。検査で一番大切なことは、この良性、悪性を確かめることです。血液検査で甲状腺ホルモンの量を確かめたりもします。

良性のものでも、甲状腺ホルモンが過剰に分泌されているなど手術が必要な場合もあります。また、経過をみるうち悪性であることが分かることもありますので、定期的な検査が必要です。

悪性のもものでは手術や放射性ヨード治療、化学療法を行うこともあります。



### ～編集後記～ 風薫る5月！

5月になり新緑が美しい季節になりました。自然の新緑に囲まれていると清々しい気分になり、身も心もリフレッシュしてきますね。また、新緑には目の疲れを緩和したり、ストレスを和らげる効果もあると言われています。暇を見つけて、散歩やハイキングに出かけてみてはいかがでしょうか？

岸(松山)